

平成25年度 中学生の「税についての作文」優秀作品紹介

「税を考える週間」行事の一環として、税を考える週間実行委員会が荒尾玉名地区の中学生を対象に募集し、税についての知識と理解を深めるために毎年行われています。

今年度は、荒尾玉名地域の中学校16校から2,317点の応募があり、和水町から下記のとおり3人の生徒が受賞されました。



南九州地区納税貯蓄組合連合会優秀賞	福山文奈美 (三加和中)
和水町長賞	下津 晴子 (菊 水 中)
和水町教育長賞	片桐南海子 (三加和中)



和水町長賞

税に助けられて

菊水中学校 三年 下津 晴子

「人のために動ける人になりたいなさい。」

これが、母の私への願いである。

私は、小学五年生のとき国立病院で、鼻の手術を受けた。全身麻酔で内視鏡での難しい手術だった。手術後は、気分が悪く苦しい思をしたのを覚えている。両親をはじめ祖父母も心配していたと聞いている。約十日ほどの入院だった。

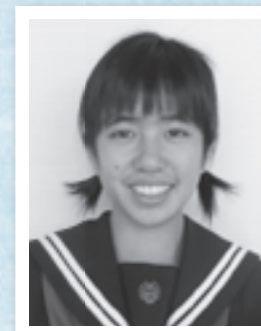
そのころ私の住んでいる和水町では、産まれてから高校三年生までの医療費が無料になる制度ができていた。私が受けた手術を町の税金によって支払われたことになる。私は町の税金がこのような形で使われていることを知り、初めて身近に感じることができた。「本当に、助かった。」

た。」とあの頃を振り返り両親もつぶやいていた。私もありがたいと思った。

私の母の言った立派な納税者になるということが、初めはわからなかった。しかしこの経験を通して、税金が人のために正しく使われ、その恩恵を受けた者として今度は私が恩返しをする番だと気づいた。だから将来仕事をし、しっかり税を納める人にならなければならないと思う。

今、私の町では、学校建設が進められている。大がかりな大工事で問題となっている。これにも税が関係している。この税の使い方について議論が繰り返されているのを見聞きし、難しい問題だと思う。しかし、医療費の無料制度のようにみんなが納得できるような税の使い方になればと思う。そのためには税に関心をもち、人ごととは思わずみんな考えていくことが大切だと思う。

このように、たくさんの方々の税金が使われていることがわかる。私たちのくらしを守り快適にするために、大切な税金が使われている。税金は私たちが、生活していくためになくてはならないものだと思った。「立派な納税者になります。」



南九州地区納税貯蓄組合連合会優秀賞

税が守る安心・安全な生活

三加和中学校 三年 福山文奈美

私は日頃、消費税以外で税を身近に感じたことがありませんでした。消費税も買い物とき、払うのがあたりまえという感覚で生活していました。

今年の四月の出来事です。いつものように部活動を終えて友達と自転車帰っているとき、道路を消防車がサイレンを鳴らしながら過ぎて行きました。

「何だろうね。どこか火事かなあ。」と話していると、防災無線で、

「〇〇で建物火災が発生しました。」と流れました。私は、自分の家が大丈夫

か心配になりました。なぜかという、私が生まれて間もない頃、家に雷が落ちて火災になる寸前だったと家族から聞いたことがあったからです。

急いで帰っていると、右手の奥で高い杉の木を越えるぐらいの赤い炎が間近に迫ってきました。その場所の近くには、

たくさんの消防車が集まり、大人の人が人や車を誘導していました。火事の現場は地区の神社でした。

燃え盛る炎を消すために消防署の方や消防団の方が川や防火水槽から水を引いて火元をめがけて消火活動をされていました。たくさんの方の協力により無事に火を消すことができました。残念ながら神社は本殿を含むほとんどの建物が焼けてしまいましたが、けが人は一人もいませんでした。

この体験を通して、私はこのような消火活動にも税金が使われていることに気付きました。私たちは急病や火事の際には救急車や消防車を呼ぶことができます。それは、両親や地域で働く方々が納めている税が使われているからです。今まで何気なく見ていた消防小屋、防火水槽などの設備も税金のおかげで設置されていることが分かりました。つまり、私たちの安心・安全な暮らしを守るために、税金が有効に使われているのです。

テレビや新聞で、必要以上に救急車を呼ぶ人がいるということを知り、驚くとともに、もっと税の正しい使い方を知ってほしいと思いました。

東日本大震災や九州大豪雨の復興はまだ続いていることを忘れないで、本当に今必要な事に税金を使っていくことが大事だと私は思います。

これからの生活の中でもっと税に関心を持ち大切に使える人になりたいです。



和水町教育長賞

町と税

三加和中学校 三年 片桐南海子

私はまだ、税がいったいどのような仕組みで、どのように私たちの周りを駆け巡っているのか、よくわかっていません。中学生になってから、社会科の授業で税について少し学び、計三回の租税教室もありましたが、税というのは奥が深く、まだ中学三年生の私が税のすべてを理解するのは、到底不可能な事だと思えます。しかし、私達国民が日頃いろいろな場面で納めている税が、たくさんの方々の物、施設、事業において役に立っていること、そして私達の生活を豊かで暮らしやすいものにしてあげていることは、十分に分かっているつもりです。

私が生まれてから今まで住んでいる和水町では、少子高齢化がとて進んでいます。小、中学校ともに児童、生徒数は毎年減り続け、私たちの学年が、我が三加和中学校最後の二クラス

となってしまうました。来年度には、ついに旧三加和町内の小学校と中学校が併合します。また、和水町の人口の三十六パーセントが六十五歳以上の高齢者です。通学途中に出会う人の三人に一人はお年寄りの方で、毎日町の高齢化をひしひしと感じています。

このように、少子高齢化が深刻な和水町ですが、その対策として、様々な取り組みが行われています。少子化対策としては、第一子の出産から出生祝金の支給、チャイルドシートの購入費の助成、高校三年生まで医療費無料、子育てひろばの設置等、子育てを支援する事業がたくさんあり、母はとても助かっている、と言っています。また、高齢化対策としては、無料の高齢者福祉サービスが充実しており、他の町に自慢したい程、お年寄りの生活は豊かだと思えます。

これらの公的サービスは全て、税の存在のうえで成り立っています。私たちが納めた税金は、肌で感じる程身近な場所役立っているのです。私は今まで、地方や国の公的サービス、公共施設の恩恵を受けて育ってきました。私はこの国に税があることに感謝し、近い将来、町を、そして国を支える国民の一人になれるよう、しっかり納税をします。生まれ育った町を、国を、支援する立場になれるそれは税があるから成せることです。